



### 3 畦畔・農道等の雑草管理

#### (1) 除草・刈取り処分の徹底

○斑点米カメムシ類の生息密度を抑えるため、6月中旬から雑草がない状態を保ち、7月上旬には仕上げ除草を行う。

○暗色米等の着色粒の防止のため、圃場周辺に枯草が無い状態を保つ。

#### (2) 主な除草剤の特徴

農薬登録上、除草剤ごとに定められた使用する量や回数、時期についてラベルをよく確認し使用する。



除草剤名	抑草期間 (目安)	難防除雑草への効果			散布後の 降雨 (目安)	特徴及び注意点
		スギナ	イボクサ	ギョウ 双メヒ		
ラウンドアップ マックスロード	50～60日	○	○	○	1時間	・根まで枯らすので効果が持続する ・処理後5～7日間は刈払い・耕起しない ・スギナやツククサは2.5倍液を散布する
バスタ液剤	40～50日	○	○	△	2～3時間	・畦が崩れないので畦畔に有効 ・ラウンドアップと比べて枯れ上がりが早い ・スギナを含め広い範囲の雑草に効果が高い
ブリグロックSL	20～30日	○	○	×	15分	・効果発現が速効的で、低温でも効果が安定 ・薬剤がかかった部分が主に枯れるため、雑草の再生が早い

※違った作物が隣接する場合には、両方に登録のある除草剤を使用して下さい。

※除草剤散布の際は、使用基準を守り、風向きに注意するなど周辺作物に農薬が飛散しないように十分に注意すること。



**カメムシの住み家を無くしましょう！～斑点米被害防止対策から～**

**「今年の斑点米カメムシ類の発生はやや多！」**

#### 効果的な防除方法

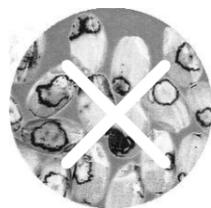
- ① 6月頃の除草+7月上旬の仕上げ除草の実施
  - ② 出穂期の除草はしない！
  - ③ 出穂後の防除の徹底
- ※ 地域ぐるみの一斉防除を実施しましょう。

「着色粒による検査規格（目安）」

- 2粒～3粒（1,000粒中）混入 ⇒ 2等  
 4粒～7粒（1,000粒中）混入 ⇒ 3等  
 8粒以上（1,000粒中）混入 ⇒ 規格外



「服装で身を守る」  
保護眼鏡、長靴、  
長袖、長ズボン等



### 4 病虫害防除

#### (1) 基幹防除

○早生品種の粒剤防除体系（1回目：出穂前+2回目：出穂後）

##### 【1回目：出穂前】

対象害虫	薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
いもち病、紋枯病、カメムシ類	イモチエース キラップ粒剤	3 kg	出穂 10～7日前	1回	水深3～5cm程度で散布7日間は湛水状態を保つ

##### 【2回目：出穂後】

対象害虫	薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル 粒剤	3 kg	出穂 10～14日後	3回以内	水深3cm程度で散布4～5日間は湛水状態を保つ

(2) 随時防除 常発地や昨年発生が見られた地域は田まわりを徹底しましょう

○いもち病 ※曇天・日照不足が続くと発生が見られる

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
ブラシン粉剤DL	4 kg	発生時	2回以内	葉色の濃い稲や過繁茂の稲、風通しが悪く昼近くまで朝露がのこる部分に発生しやすい。

○紋枯病 ※前年被害ワラが吹き寄せられる畦際から多く発生、穂ばらみ期以降に急激に上位進展、枯れ上がる。

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
モンセレン粉剤DL	4 kg	発生時	4回以内	五百万石やゆめみづほ等の早生品種に出やすいので田まわりを徹底する。

○稲こうじ病 ※穂ばらみから出穂にかけて雨が多く、低温・日照不足で発生が多くなる。

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
モンガリット粒剤	3～4 kg	出穂2～3週間前	4回以内	水深3cm程度で散布4～5日間は湛水を保つ。使用時期は出穂45日前まで。
撒粉ボルドー粉剤DL	3 kg	出穂14～10日前	—	穂に付着すると葉害を生じるので、必ず出穂10日前までに散布する。

**農薬散布後の止め水期間は7日間！**

**本田粒剤や水田用除草剤の散布後7日間は落水やかき流しをしない！！**

作業のポイントのチェック！！

- 幼穂形成期まで中干しをしましたか。□ 穂肥は適期に適量施用しましたか（分施肥体系）。
- 7月上旬の畦畔の仕上げ除草はしましたか。□ 紋枯病の防除はしましたか（常発地・多発地）。

**6月から8月にかけては、農薬散布の機会が多くなります。農薬危害防止に努めましょう！**

- ①自身の健康管理に留意する、②子供や周辺住民に配慮する、③適正に使用・保管・廃棄する